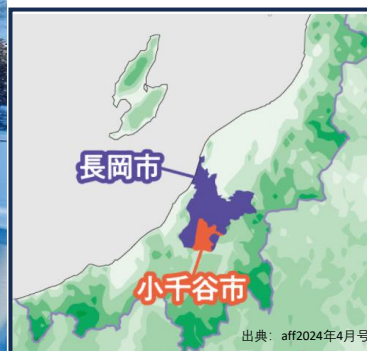


新潟県中越地域

雪の恵みを活かした 稲作・養鯉システム

～ 地域の特性を巧みに活かし
伝統産業を未来へ繋ぐ ～



出典: aff2024年4月号

現在の長岡市と小千谷市にまたがりかつて二十村郷と呼ばれたこの地域は、標高500mほどの山間部に集落が点在する日本有数の豪雪地帯であり、「錦鯉発祥の地」として知られています。

この厳しい環境のなか、血縁集団「マキ」を中心とした地域コミュニティにより、横井戸の掘削や棚池による雪解け水を貯水・活用する技術が継承され、稲作や養鯉に必要な「水」を確保するための伝統的な水利システムを確立しています。

生物多様性と景観の保全



耕作放棄される農地を棚池に転換することで、地域の生物多様性と美しい景観が守られています。

▼四季折々の景観



景観

▼伝統的水利システムにより潤う 棚田棚池の景観は日本屈指



水利

伝統的な水利システム



棚池による雪解け水や天水の貯水、またはそれらが地下浸透した水を横井戸により活用するなど、特徴的な水利システムが受け継がれています。

泳ぐ宝石「錦鯉」発祥の地



かつて食用として飼育されていた真鯉から突然変異により出現した泳ぐ宝石「錦鯉」。発祥の地として絶大な人気を博し、地域の一大産業へと発展しました。

地域の特性を活かした稲作



山間地特有の昼夜の寒暖差を活かした良質米や、休耕田を活用した酒米を生産しています。



稲作

▲地形を活かした棚田での耕作



養鯉

▲休耕田の棚池化
▲渇水時のため池としての活用

豪雪、中山間
など不利な
条件を活かし
良好な循環をもたらす
稲作・養鯉システム

棚田米、錦鯉の
ブランド化

日本農業遺産認定による効果

稲作・錦鯉の生産振興

雪の恵みと地形が織りなす生業が進展

- ▶豊かな地域資源を活かしながら農業と養鯉業を
発展させ、地域ブランドを確立
- ▶中山間地域という立地的に不利な環境を逆手に
とった生業

- ❑ 錦鯉出荷金額
2,653,715千円(H28)→3,124,894千円(R5)
- ❑ 長岡うまい米コンテスト入選(最優秀賞)
同地域産が受賞(R元、R2、R4)
- ❑ 一等米比率(平場地域と比較)
85%(平場地域平均58%)



「棚田棚池」景観保全の推進

農業、養鯉業の躍進により好循環をもたらす

- ▶日本の原風景で、棚田棚池が折り重なる曲線が
四季折々の景観を創出、棚田棚池の混在景観は
日本屈指の風景
- ▶農業生産条件の不利な中山間地域の活動支援
棚田棚池の適正な利用状況を把握
- ▶鳥獣被害の軽減など波及効果が期待

- ❑ 中山間地域直接支払面積
132.4ha(H28) → 135.6ha(R元)
- ❑ 養鯉池保全面積
239ha(H29) → 260ha(R5)
- ❑ 棚田棚池景観を活用したイベント
なし(H28) → 3催事(R5)



地域に守られ引き継がれてきた伝統文化

伝統行事として新たな魅力の創出

- ▶伝統技法、伝統文化などを伝承、晴れの舞台
の創出、主要な観光資源としての活用
- ▶特徴的な社会組織である「マキ」、本家、分家
関係で結ばれた血縁集団の存在



- ❑ 牛の角突き(観光客数)
20,500人(H28) → 22,200人(H30)
- ❑ 山古志角突き女子部員
40人(H29) → 70人(R5)
- ❑ 闘牛オーナー制度
31人(H30) → 32人(R2)



錦鯉の魅力を国内外に情報発信

錦鯉発祥の地であることを積極的にPR

- ▶ブランド化による養鯉業の更なる振興、認知度
の向上、他の錦鯉産地との差別化
- ▶「錦鯉発祥の地」という優位性や国魚「錦鯉」の
魅力を積極的にPR



- ❑ 県錦鯉品評会入場者数
1,229人(H29) → 1,382人(R5)
- ❑ 錦鯉品評会シーズンの外国人宿泊者数
13,518人(H30) → 20,830人(R元)
- ❑ 外国人品評会出品者数(出品数)
43人60出品(H28) → 72人112出品(R5)
- ❑ 各国大使館への錦鯉寄贈
10大使館(令和5年度現在)

